

4:十分達成している 3:ほぼ達成している 2:検討を要する 1:改善を要する

項目	内容	評価	備考欄
教育・保育目標について	・目標の具体化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか	4	・昨年度の研究1年目としての成果や課題も明確になり、反省を活かしつつ子どもの実態に合わせた目標をたてることができ、職員全体で目標に向かう保育ができた。 ・子ども家庭庁が掲げる、100か月の育ちビジョンを意識し、子ども一人ひとりのウェルビーイングを目指した研究テーマで取り組むことができた。
	・目標は、各施設や地域の特徴を生かしているか	4	
	・目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	4	
	・目標は、前年度の反省を活かしながら全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	4	
教育・保育内容について	・指導計画は、教育保育計画に基づき作成しているか	4	・教授からのご指導の中で、『生活と遊びは両輪である』という学びをいただいた。特に乳児の生活を再度見直し、主体性を大切にしながら一人ひとりのペースに合わせたゆるやかな担当制保育を学び合った。生活リズムが整うことで気持ちが安定し、遊びも存分に楽しむことができることがわかった。また、遊びが満たされることで、生活の自立への意欲にも繋がることわかった。 ・子ども一人ひとりの心情面(養護)を大切に、自ら好きな遊びを見つけ心地よく過ごすことや発達に応じた育ちあいを意識し、前月の子どもの姿をもとに、一人ひとりの発達に応じた指導計画を作成している。 ・子どもの主体的な遊びをもとに、運動会や生活発表会などを計画してきた。子どもたち自身が取り組んできた好きな遊びだからこそ、大きな行事もイキイキと取り組む姿が見られた。 ・保育サポート児の環境整備・援助を丁寧に行いつつ、個の育ちと共に集団の育ちを意識し、園児一人ひとりの個性を大切にしていける職員集団であるようにインクルーシブ教育・保育を意識した日々の語り合いを大切にできたことで同僚性がさらに高まった。 ・子どもの人権に十分配慮し、心豊かに育ちあえるよう日々の子どもの対話に注視している。心動く瞬間を見逃さないよう、職員間の連携を大切にしている。
	・毎月の指導計画は、乳幼児の実態に即して作成しているか	4	
	・月ごとに指導計画の評価・見直しをし、その結果を指導計画に反映させているか	4	
	・1日の流れ(ディリープログラム等)は、前日の評価をもとに日々改善に努めているか	4	
	・行事のねらいに沿った計画を立て、適切に実施しているか	4	
	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく援助・支援を適切に行っているか	4	
	・自主性や主体性を重んじて生活習慣が身につくようにしているか	4	
	・子どもの姿を見取り、興味関心に応じた教育・保育を行っているか	4	
	・子どもの発達や成長につながるよう環境の構成や援助の工夫をしているか	4	
	・同僚性を発揮し、保育のねらいや育てたい力を話し合い実践しているか	4	
	・素材・用具を適切に活用しているか	4	
	・保育サポートのための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮しているか	4	
・子どもの人権に十分配慮し、互いに尊重する心を育てているか	4		

項目	内容	評価	備考欄
健康・安全について	・食育を通して、子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫しているか	4	・栄養士の食育指導や農園での栽培活動を通して、楽しみながら食に興味・関心をもち、苦手な物も食べてみようとする姿が見られるようになった。
	・食物アレルギーは、個別に配慮して食事を提供しているか	4	・避難訓練では様々な内容や時間を想定し、毎月の危機管理の中で議論を重ね、子どもたちの命を最優先にした訓練を実施している。
	・年齢に合った保健対策（発育・発達の把握、SIDS予防、感染症対策等）を講じているか	4	・看護師の保健指導を通して学んだことを意識し、自分の体を大切にしようとする心が育まれている。
	・健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくよう取り組んでいるか また家庭への啓発を行っているか	4	・1学期には4・5歳児に生命の授業を実施した。妊婦職員の胎児の心音や友だちの心音を聞いたり、赤ちゃん人形を抱っこしたりと様々な体験を通して生まれてきた喜びを感じ合うことができた。
	・避難訓練や交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか	4	
	・乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか	4	
職員 の 資 質 向 上	・職員の研修ニーズを把握し、職員に必要な研修機会を確保しているか	4	・研究1年目の成果と課題を意識しながら2年目の研究に迫る保育を職員一人ひとりが意識してきた。肯定的に子どもの姿を捉え、保育を分析し、育ちあい・認め合いの可視化に努めることで、保育教諭1人ひとりの保育の質の向上につながった。
	・研究主題は、教育・保育目標の具現化につながるものであるか	4	・研究2年目として保育を公開し、八尾市内の就学前施設や小・中学校の教員も参加の中、子どもの姿を多面的に見取りながら、研究テーマに迫る話し合いができた。参加者と共に保育を分析することや助言者である教授にも具体的な指導助言をいただくことで、自園だけでなく参加者も学んでいただける機会となった。
	・研究・研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか	4	・学習会では人権研修やダイアリー研修など、職員間の話し合いを大切に、ねらいをもって取り組むことで、有意義な学びの時間となっている。
	・各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか	4	
職員 運 営 管 理 ・ 職 員 間 の 協 働	・職務内容や相互の連携に必要な情報の共有方法が明確で、協働できる体制になっているか	4	・子どもを中心にそれぞれの立場で全力で取り組み、協働できる体制になっている。また風通しのよい職場である。
	・職員を適材適所に配置し、係や仕事の分担が能率的に行える組織になっているか	4	・行事のあり方、会議の見直しなどをその都度行い、時間の捻出や内容などが充実できるものになるようにしてきた。今後も検討を重ねながら、会議の充実を図りたい。
	・各種会議や打合せを適切かつ効率的に進めているか	4	・研究2年目として、学んできたことの冊子づくりや発表資料を作成する過程において、互いに学び合いながら、公務員として教育・保育内容を広める役割を果たすことができた。
	・職員は公務員としての責務や職場での立場を理解し、協力を惜しむことなく施設の運営にかかわっているか	4	
	・運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的な検証・見直しをしているか	4	
守 秘 義 務 の 遵 守	・乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか	4	・公文書收受、発送、処理等は担当、管理職で必ず2重チェックを行い適切に行っている。
	・公文書收受、発送、処理を適切に行っているか	4	
	・各表簿は、適切に作成、処理しているか	4	

項目	内容	評価	備考欄	
開かれたこども園づくり	施設・地域との交流や連携	・他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか	4	<p>・近隣こども園・小学校・中学校・高校・老人センター・地域の農園の交流では、地域コーディネーターを中心に、双方で事前に交流の計画・ねらいをもったことで、互いに実りある交流ができた。次年度には交流回数も検討しながら進めていきたい。</p> <p>・高校との交流では、仕事の内容や遊びの中で育つ子どもの姿を具体的に話す時間を設けたことで、高校生の学びにつながった。次年度は1回目の交流時に話をするので、より意識をもってかかわる姿が想像できるので、検討していきたい。</p> <p>・自園の公開保育に小・中学校の職員に参加してもらうことで意見をいただき、互いの学びとなった。</p>
		・地域の様々な人と触れ合う中で、乳幼児が楽しく過ごし、充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか	4	
		・担当者同士が、事前打ち合わせや活動の振り返りを行い、互惠性のある交流になるように工夫しているか。	4	
		・合同研修や授業・保育の見学を通して互いの教育・保育に対して理解を深めているか	4	
		・乳幼児の興味や関心に基づいて地域の施設等を利用し、保育に活かしてしているか	4	
		・地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか	4	
		・子育て支援機関と情報共有しながら、連携をとっているか	4	
	子育て支援	・施設を開放し、地域の親子が遊べる場や機会の提供を行なっているか	4	<p>・子育ての悩みには日頃から担任が寄り添い、保護者と共に子どもたちの健やかな育ちのために連携をしている。また子育て支援事業コーディネーターや家庭支援担当者が、保護者の悩みに丁寧に寄り添っている。</p> <p>・参加したくなるような学級懇談会をめざし、保護者同士もつながり合えるような内容の工夫に努めている。</p> <p>・一時預かり保育と子育て支援センターで連携をはかりながら、利用者のサポートしている。</p>
		・職員による「育児に係る子育て相談」は充実しているか	4	
		・医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか	4	
		・一時預かり保育の利用者にとって安心できる場になるよう努めているか	4	
	情報の発信	・園だよりやクラスだより、ホームページ等で教育・保育内容を発信し、理解をしてもらうよう努めているか	3	<p>・地域の新聞にも園の取り組みを一部掲載している。</p> <p>・毎年開催しているポートフォリオ展を今年度は人権コミュニティセンターにて約半月間開催させていただいた。自園の教育・保育に興味・関心をもっていただけたように思う。これからも自園の教育・保育内容を地域に丁寧に発信していきたい。</p> <p>・ホームページでの発信にもさらに力を入れていきたい。</p>
		・地域の連絡会等でこども園の取り組みを発信するとともに、地域施設の事業について知り、教育・保育の充実に役立てているか	4	
	外部評価	・第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか	3	<p>・関係諸機関に自己評価を開示し、ご意見をいただきながら次年度に活かしていきたい。</p> <p>・入園式には第3者委員の方にご出席いただき、保護者へ挨拶をしていただいている。運動会・生活発表会にも参加していただくことで、自園の取り組みや子どもたちの成長を感じていただけている。</p>
・地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか		3		
施設・設備	・施設内外の設備や遊具の安全点検を計画的に行っているか	4	<p>・施設の安全点検は職員・看護師・園長で月1回それぞれ目で丁寧に実施している。</p> <p>・毎月1回様々な内容・時間で避難訓練を実施し、毎回危機管理会議の中で振り返り、職員一人ひとりが危機意識をもって実施している。</p>	
	・遊具や用具等を、活用しやすいように整理、保管しているか	4		
	・災害や不審者等に対応する整備を行っているか	4		
	・掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか	4		
経理出納	・各種会計を適正かつ適切に処理しているか	4	<p>・事務員・管理職の2重チェックで丁寧に実施している。</p>	

成果

- ・インクルーシブ教育・保育が職員一人ひとりに浸透し、支援児や配慮児だけでなく、一人ひとりがクラスの中で自分のよさを発揮できるように個の育ちと集団の育ちを大切にしたクラス運営を心がけ、職員一人ひとりの質の向上につながった。
- ・保育者の言葉がけやかかわり方から、肯定的に子どもを見取ろうとする意識が高まり、一人ひとりの育ちのスムーズステップが積み重なっている。肯定的に見取ることが職員の人権意識も高まっている。
- ・職員一人ひとりの質の向上の先に、支え合える体制づくりと聞きやすい雰囲気ができていることで、一人で悩まず、多様な意見から保育内容の幅が広がった。
- ・研究園として保育を公開し、教授に指導助言をいただいたことや、自分の保育を可視化する経験は職員一人ひとりの大きな力になった。今後もこの力を発揮しながら、公立としての役割を発揮していきたい。
- ・研究で学んでいることや大切にしていることを保護者にも園だよりやポートフォリオで発信することで、園の教育・保育の理解にもつながっている。また保護者も子育ての悩みを相談してくれ、一緒に成長を喜び合える関係性になっている。
- ・今年度は人権コミュニティーセンターが研究発表の場所として、集会室を貸し出していただいたことで、子どもの遊びや午睡の保証ができ、ありがたかった。また、『園のよいところポスター』の掲示にも協力いただき、地域の皆様の目にふれるきっかけとなった。今後も続けていきながら、市民にむけて公立の園の教育・保育を伝えていく工夫に努めていきたい。

課題

- ・会議の時間・内容の工夫。
- ・教育・保育の内容と発信の仕方。
- ・『育ちあい』『認め合う』子ども、保育者の姿などの可視化。
- ・職員一人ひとりのさらなる質の向上について

改善策

- ・今年度の取り組み土台に、見直しをしながら会議の内容が実りあるものになるように意見を出し合う。
- ・ホームページの検討や市民への発信の仕方を、保護者・地域を巻き込みながらすすめていきたい。
- ・今年度の可視化を土台に、多面的に保育を見取り分析する。
- ・職員一人ひとりにあった方法で質の向上をめざす。(ビデオ撮影・解説付きなど)